

令和八年八月度
御報恩御講

なかおきにゅうどうごしょうそく

『中興入道御消息』

弘安二年十一月三十日 五十八歳

か こ ふ ぼ か 卒 塔 婆 く どく てん
過去の父母も彼のそとばの功德によりて、天の

にちがつ ごと じょうど 照 こうよう ひとなら さい し
日月の如く浄土をてらし、孝養の人並びに妻子は

げん ぜ いのち ひやくにじゅうねんたも ごしょう ふ ぼ
現世には寿を 百二十年 持ちて、後生には父母とと

りょうぜんじょうど たま こと みず 澄 つき 映
もに 靈山浄土 にまいり給はん事、水すめば月うつ

鼓 打 響
り、つゞみをうてばひゞきのあるがごとしとをぼ

そうら これ のちのち おん 卒 塔 婆
しめし候へ等云云。此より後々の御そとばにも

ほけきょう だいもく あら たま
法華經の題目を頭はし給へ。

(御書一四三四^八行目～一一行目)

■ 強調 ・ 確認 ■

本日拝読の『中興入道御消息』は塔婆に関する化儀と功德について、大聖人様の御指南を伝えた御書として有名です。

拝読した前の箇所には、塔婆の功德について、

「むすめ御前の十三年に、丈六のそとばをたてゝ、

其の面に南無妙法蓮華經の七
字を顚はしてをはしませば、
北風吹けば南海のいろくづ、
其の風にあたりて大海の苦を
はなれ、東風きたれば西山の
鳥鹿、其の風を身にふれて畜
生道をまぬかれて都率の内院
に生まれん」

と仰せになっています。

御文の内容は「亡くなったお嬢さんの十三回忌にあたり、面に南無妙法蓮華經の題目が顕わされた塔婆を建立すれば、北風がその塔婆に触れて、南海に住む魚がその風に触れると大海の苦を離れ成仏することができると。また東から吹いてくる風が塔婆に触れて、

西の山まで到達すると、その山に住む鳥や鹿などの動物たちはその風を身に受けて、塔婆の功德によって畜生道の苦しみから逃れ、天上世界に生まれ変わる事ができる」との意味です。

更にこの続きには、

「況んやかのそとばに随喜を
なし、手をふれ眼に見まいら
せ候人類をや」

と仰せられており、妙法蓮華
経と認められた塔婆に触れた
風に当たった魚や鳥・鹿など
の獣ですら、

畜生道をまぬがれることができるのであるから、塔婆を建立して、随喜して手に触れ、眼に見る人々は、計り知れない大きな功德を得ることができると仰せられ、塔婆供養の功德をお示しになられています。

また、この塔婆について
『草木成仏口決』に、

「我等衆生死する時塔婆を立て
開眼供養するは、死の成仏
にして草木成仏なり」
と示されています。

塔婆供養は自らお題目を唱えることのできない故人や感情を持たない非情の草木を、御本尊様の御威光と題目の力によって成仏させるものでもあります。

また、私達が生きている時の成仏が、自身の日々の勤行・唱題や折伏による功德を

もって亡くなった人に回向を
することが大事です。

本宗においては常盆・常彼
岸との言葉のとおり、日々の
生活の中に報恩感謝の気持ち
や追善供養の気持ちを忘れる
ことなく精進していくことが
肝要です。

お盆の月に当たり塔婆供養
の功德と大事さを再確認して、
先祖供養と共に毎日の信心修
行・そして折伏に精進してま
いりましょう。